

平成30年度 津幡町立津幡中学校 学校評価計画書

(★津幡町共通評価項目)

※1：より肯定的な回答・1+2：肯定的な回答

重点目標	取組の方向性	主担当	・昨年度の現状 →今年度の方向	評価の観点	達成度判断基準 ※1・1+2 判定基準：B以上	備考 (H29学校評価；前期→後期)
○実効性の高い取組の推進と検証による見直しの徹底	1 4つの力(挨拶、校歌、清掃、思いやり)を高めるための指導の徹底	生徒指導主事	・楽しくないと答えた生徒へのケアが大いに必要である。 ・やや下降気味である。安心して過ごせる学校づくりに努めていく。 →適切な人間関係づくりのための取組が求められる。	生 級友と仲良くするようがんばっている	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	(71%・97%)→(70%・96%) (69%・98%)→(72%・99%) (47%・94%)→(47%・95%) (66%・97%)→(74%・100%)
				生 友だちには思いやりの心で接している		
				保 わが子は友だちと仲良く学校生活を送っている		
	(2)挨拶、校歌、清掃指導の創意工夫	生徒指導主事	・挨拶はまだまだ個人差が見られる。今後も粘り強く指導していかなければならない。 ・校歌の状況は、生徒の意識が低下している →より一層の指導の工夫が求められる。	生 学校へ行くのが楽しい	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	(55%・90%)→(55%・89%) (37%・91%)→(38%・89%) (51%・91%)→(49%・89%) (67%・97%)→(76%・100%)
				保 わが子は学校へ行くのを楽しみにしている		
				生 先生は悩みとかには親身に相談に乗ってくれ、良い点を褒めてくれる		
2 取組の一本化(生活目標と学習目標の達成に向けた取組、ポジティブアクション)と外部講師の有効活用	(1)実態に応じた月目標の設定と具体的取組の単純化	生徒指導主事 学習C	・生徒にとって、取り組む内容や数が多すぎて中途半端となってしまっていた。 →単純化し、職員も一丸となって取り組むことが必要である。	生 毎月の目標達成に向けて、積極的に取り組んでいる	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	
				教 毎月の目標達成のために、根気強く指導している		
				保 わが子は家庭や学校でしっかりとあいさつしている		
3 確実な情報共有ができる組織体制の構築	(2)ゲストティーチャー(GT)として外部講師を活用した教育活動の展開	教頭 主幹	→昨年度、GTを活用した取組が充実していた。他にも活用できないかを検討していく。	生 家庭や学校ではしっかりとあいさつしている	A 2回以上 B 1回 C 0回	
				保 わが子は家庭や学校でしっかりとあいさつしている		
				教 家庭や学校でしっかりとあいさつするように指導している		
3 確実な情報共有ができる組織体制の構築	(2)検証の機会の確実な実施	教頭 主幹	・取組に検証が不十分である。	生 校歌は大きな声で歌うようにしている	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
				教 集会などで、校歌を大きな声で歌うように指導している		
				生 掃除には無言でまじめに取り組んでいる		
3 確実な情報共有ができる組織体制の構築	(2)検証の機会の確実な実施	教頭 主幹	・取組に検証が不十分である。	教 GTを活用した教育活動を行っている	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
				教 学年の情報共有の機会が十分されている		
				教 学年の情報が十分に伝わっている		
3 確実な情報共有ができる組織体制の構築	(2)検証の機会の確実な実施	教頭 主幹	・取組に検証が不十分である。	教 取組後の検証の機会が十分されている	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
				教 取組の検証が生かされている		
				教 取組後の検証の機会が十分されている		

重点目標	取組の方向性	主担当	・昨年度の現状 →今年度の方向	評価の観点	達成度判断基準 ※1・1+2 判定基準：B以上	備考 (H29学校評価；前期→後期)
○学力を高めるための取組と道徳教育の充実	1 授業力や学級経営力を高めるための取組の充実	研究主任	・教員の意識の高まりが見られる。今後も学力向上ロードマップに基づく取組を続けていく。 ・昨年度の指定研究の取組に伴い、充実した研究となった。	教 様々な機会で見聞を広げ、指導案を2回以上作成した	A 2回以上 B 1回	(34%・89%)→(45%・94%) 県質問紙調査項目 (H29；23%・93%) (63%・94%)→(65%・100%) 県質問紙調査項目 (H29；34%・94%)
				教 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている		
				教 課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている		
2 学力向上ロードマップに基づく取組の推進	(1)校内研究会の充実と指導案作成の機会の設定(目標；2回)	主幹	→若手を中心に行う必要がある。	教 ミニ研修会を行っている	A 月1回以上 B 月1回以下 C 年数回	
				教 ミニ研修会の内容が充実している		
				★(3)メディアルームの有効運用とICT機器を活用した授業の推進		
2 学力向上ロードマップに基づく取組の推進	(1)学力調査の有効活用とその分析に基づいた取組の徹底	主幹 研究主任 学習C	・新たな授業ルールに基づいた取組の成果が見られてきた。 ・家庭学習の習慣化に	生 授業がわかりやすい	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	(53%・89%)→(53%・89%) (16%・74%)→(15%・74%) (69%・100%)→(71%・100%)
				保 わが子は授業が分かりやすいといっている		
				教 わかりやすい授業を行うよう工夫し、学力向上に努めている		

			向けての取組を重点にしてきたが、数値的には昨年度を下回っている。指導方法の検討を要する。 →実効力のある学力向上ロードマップに基づく取組を進める。	生 家庭学習を毎日している 保 わが子は家庭学習をしっかりと取り組んでいる 教 家庭学習の充実に向けた具体策を講じている 生 自分で計画を立てて勉強している 保 お子様は、自分で計画を立てて勉強している 生 「授業ルール」を守って授業に参加している 教 学習規律の定着を図り、学習意欲を高める指導に努めている 教 学力向上ロードマップに基づき、取り組んでいる 教 具体的な取組の実施後、検証し次の改善に生かしている	A 70%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満 A 70%・95%以上 B 60%・90%以上 C 50%・80%以上 D 50%・80%未満 A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	(57%・87%)→(54%・82%) (19%・61%)→(18%・66%) (21%・79%)→(38%・78%) (25%・68%)→(31%・69%) (21%・61%)→(21%・62%) (61%・96%)→(58%・95%) (67%・97%)→(71%・97%) (18%・76%)→(24%・85%) (31%・83%)→(29%・83%)
	(2)津幡中学び合いスタイルの継続実施	研究主任	・学び合い活動やまとめの活動が自然に行われるようになってきた。 →構築された「津幡中学び合いスタイル」のより一層の充実を図る。	生 生徒の間で、話し合い活動や学び合い活動をよく行っている 生 授業の最後に学習内容のまとめや振り返る活動を行っている 教 学び合いを意識した授業実践に努めている 教 課題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力を育成する指導をしている	A 55%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	(45%・82%)→(43%・82%) (48%・84%)→(47%・83%) (40%・89%)→(41%・97%) (40%・94%)→(44%・94%) 県質問紙調査項目 (H29; 22%・88%)
	(3)3部会及び教科部会を生かした組織的な取組の充実	研究主任 主幹 学習C 生徒指導主事	→システム化した3部会を生かした取組の充実を図る。	教 3部会や教科部会に積極的に参加している 教 3部会や教科部会が充実している	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	
3 教科化を踏まえた道徳授業の実施	(1)授業参観による公開授業の実施	道徳推進教師	・教科化に向けた取組と理解がまだ十分とはいえない。	生 道徳の時間は好きだ 教 道徳の授業内容を工夫し、積極的な授業実践に努めている 教 普段の教育活動で、道徳性を育むための指導をしている。	A 40%・80%以上 B 30%・70%以上 C 20%・60%以上 D 20%・60%未満 A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	県質問紙調査項目 (H29; 21%・63%) (35%・92%)→(23%・85%) (63%・100%)→(71%・100%)
	(2)校内研修の実施	道徳推進教師 研究主任	・専門家や実践家を通じて研修を深める必要がある。	教 道徳の校内研修を実施している	A 2回以上 B 1回 C 0回	

重点目標	取組の方向性	主担当	昨年度の現状 今年度の方向	評価の観点	達成度判断基準 ※1・1+2 判定基準：B以上	備考 (H29学校評価；前期→後期)
★ ○教職員多忙化改善に向けた取組の推進	1 町の方針に基づいた取組の推進	教頭	・昨年度の平均 前期；73時間 後期；57時間 ・昨年度の最も多い月 4月；85時間	教 前期の平均時間と最大の月時間が町の目標に達している	A 平均60時間以下 最大80時間以下 B 平均65時間以下 最大85時間以下 C 平均65時間以上 最大85時間以上	
	(2)部活動の週2日の休養日(原則、水・日)の計画的な実施	教頭 部活動担当	・昨年度は週1回、月2回の土日の休養日と設定し、多くの部活動は遵守した。	教 週2日の休養日を計画的に取ることができた	A 計画的にできた B 日曜日の休養日として52日以上取ることができた C できなかった	
	(3)最終退校時刻(午後8時を原則とし、毎週水曜日は午後6時)の遵守	教頭	・80時間超えの月別人数(40人中) 4月→9月 20,19,19,15,2,21 10月→3月 14,15,7,9,6,7	教 80時間超えの職員の数 教 平日8時以降(水曜日は6時以降)となる場合、管理職に連絡している	A 0% B 10%未満 C 20%未満 D 20%以上 A 必ず連絡した B ほぼ連絡した C しないことが度々あった	
2 業務の効率化を図るための取組の推進	(1)校務支援システムの運用に向けた業務の効率化	教頭 主幹	→システムの運用に向けて準備を進める。	教 分掌作業を効率的に進めることができるように努めた	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
	(2)職員室WBやスカイスクール掲示板の活用(可視化による徹底)	主幹	・もっと有効に活用していかなければならない。	教 様々な連絡について、職員室WBやスカイスクールの活用に努めた	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
	(3)共有サーバーの活用(教材、行事資料、分掌資料等)	主幹	・活用しやすいサーバーづくりが必要である。	教 サーバー内の教材資料が活用しやすい	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	
	(4)スクール・サポート・スタッフ(SSS)の有効活用	教頭	→効果的な活用方法を検討しながら進めていく。	教 スクール・サポート・スタッフ(SSS)を活用しやすい	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	